

# 東京都の文化政策の新しいしくみづくりに向けた課題整理

## これまでの議論

### 文化の変容と文化政策の転換

文化という言葉の意味は、実験的アートを含む芸術文化と、生活文化や都市文化との相互作用を含むダイナミックなものに変化しつつある。  
 同時に、社会・経済の変化により、文化のポテンシャルや位置づけが著しく高まった。  
 そのため、文化政策は中心的政策となり、都市政策全てを貫く総合政策として位置づけられつつある。  
 以上のような、文化政策を担う、市民・企業・政府による新しい公共やガバナンスの仕組みが必要である。  
 (第3回東京芸術文化評議会(平成20年2月)への報告)

<当面の目標>  
 文化の変容と文化政策の転換の認識を都庁内外における共通理解とし、その考え方を個々の施策に反映する仕組みづくりを推進する。

### 東京都の文化政策の「新しいしくみ」づくり

「芸術関連の専門家によって構成される公的な執行機関(例:英国型のアーツ・カウンシル)を通じた助成」、「アーツカウンシルの調査研究機能を支える事務局体制についても検討に値する」(平成18年度「東京の文化施策を語る会」(福原義春座長)提言)  
 3つのアジェンダ:「総合政策として文化政策を展開可能とする行政組織」「文化多様性に基づく文化政策の展開」「アーツカウンシル型助成機関および研究機関の設立」(第3回東京芸術文化評議会(平成20年2月)への報告)

## 今回の検討事項

### 東京都の文化政策における課題

#### 東京型文化モデルの構築

東京都は、それぞれ特色のあるクリエイティブな地域が集合した巨大都市であり、それらの多様な地域を結びつけた東京ならではの文化モデルを構築し、国際的に示していく必要がある。

#### <これまでの部会において指摘された課題>

- (1) 芸術文化およびその関連分野の創造発信の担い手や研究者などの専門的意見を的確に反映すること
- (2) 総合政策としての文化政策を展開するための戦略の立案や、各局部署間の連携を行なうこと
- (3) 芸術文化活動を戦略的に支援・育成するための一貫した助成プログラムを実施すること
- (4) 政策立案及び事業実施にあたり、事前調査、事後評価及び政策へのフィードバックを行なうこと

### 東京都の文化政策における機能と「新しいしくみ」

#### 総合政策としての文化政策の展開を可能とするために必要な機能

##### (1) 総合的な政策立案

- 例1) 他の行政分野を視野に入れた戦略的事業プランの策定
- 例2) 他部局との連携による施策推進のあり方の提示

##### (2) 戦略的な助成プログラムの立案

- 例1) 芸術文化の実状に対応した助成プログラムの策定
- 例2) 芸術文化団体等とのコミュニケーション強化(プログラムオフィサーの活用など)

##### (3) 政策立案のための調査研究

- 例1) 事業の評価と改善計画のための調査研究
- 例2) 政策立案やプログラム開発のためのニーズ把握(マーケティング)

#### 新しいしくみ

##### 東京型アーツカウンシルの検討

機能を内と外から支える  
 「新しいしくみ」が必要  
 (組織のあり方と役割分担)